

令和5年度 幼保小連携推進地区事業 活動報告

推進テーマ

幼保小の交流をとおした
園児の安心感と児童の社会参画意識の向上

汐見台地区

汐見台中央幼稚園

汐見台西幼稚園

汐見台小学校

推進テーマ設定の理由

- ▶ これまでは本校と近隣幼稚園との交流が1年生や特定のクラス（総合的な学習で地域の幼稚園・保育園を材にしていた学級等）に留まっていた。
- ▶ 今年度は新校舎が完成し、施設面でも学校の機能が充実することで教育ボランティアの活動も拡大を予定している。さらに、コロナ禍で停滞していた地域との交流活動も復活させていく。このような中、新たな関わりを構築することで社会に開かれた教育課程を一層推進したいと考えている。
- ▶ 幼保小の連携においても交流の楽しさを互いに実感する事を通して、互いのよさを認め合い、進んで関わるだけでなく、自分たちで活動を創造していかれる主体性や創造性の育成を目指す。
- ▶ 一方で、新生入生が学校や授業になじめず、登校を渋るようになっていく実態も少なからずあり、ここ数年の課題となっていた。このような状況を踏まえ、年長児との交流を推進することを通して就学に向けた安心感と学校への親しみがもてるようにしていきたいと考えている。
- ▶ また、小学生においては、まちの施設としての幼稚園・保育園とかかわることや活動の中で生じる相手意識を、社会参画に必要な資質・能力の育成につなげていきたいと考えている。

令和5年度 年間計画

4月20日	運営委員会	「計画・立案」
6月20日	幼保小合同職員研修	「特別支援教育」
7月 3日・14日	第1回交流会	「幼・5顔合わせ」
12月 1日	第2回交流会	「幼・1・5交流会」
2月 6日	スタートカリキュラム研修(小学校)	
2月27日	第3回交流会	「小学校体験」
3月26日頃	振り返り	

今年度の重点課題～今年度力を入れたこと～

5年生と年長児の交流を新たに始動！

- ▶ 小学校ではたてわり活動が長年にわたって行われており、1年生と6年生はペア学年としてこれまでもたくさんの交流をしてきた経緯がある。
- ▶ 今回はその関係づくりを前倒しする形で、5年生と年長児の交流を始め、入学後のペア活動がさらに充実したものとなるよう計画した。
- ▶ 入学直後から顔見知りの6年生がいることは新入生の大きな安心につながり、また、新6年生も学校のリーダーとして頼られる存在であるという意識がより膨らむことが期待できる。双方の安心感と自己有用感の向上を図り、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校教育の理念を具現化する。
- ▶ さらに、これまでも行ってきた1年生と年長児の交流も継続することで、新入生にとって身近な在校生となる2年生の育成も図っていく。

4月 計画・立案(育成する力)

汐見台小学校

・探求心、**問題解決力**の育成

児童：社会参画

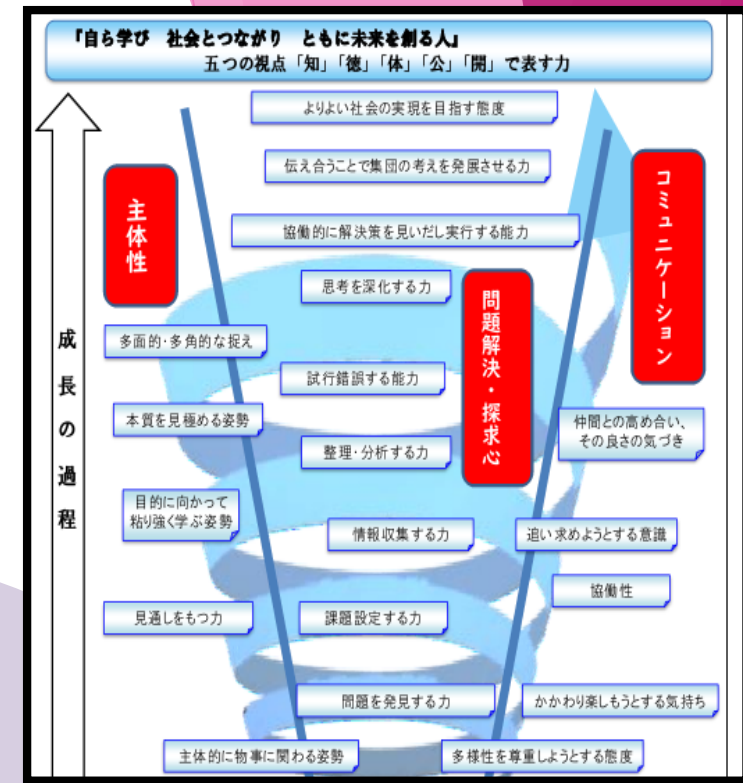
園児：安心感

・相手の思いを受け止め、
再考する力の育成

中央幼稚園

・色々な事に関心をもち、
人と関わる力の育成

西幼稚園



4月 計画・立案(子どもの活動)

R
6

「園児と
未来交流
をしたい。」

R
5

● 1回目
・遊ぶ

● 2回目
・協力する活動

● 3回目
・一年生体験

「校長先生に、
許可を取ろう。」

「園長先生に、
頼もう。」

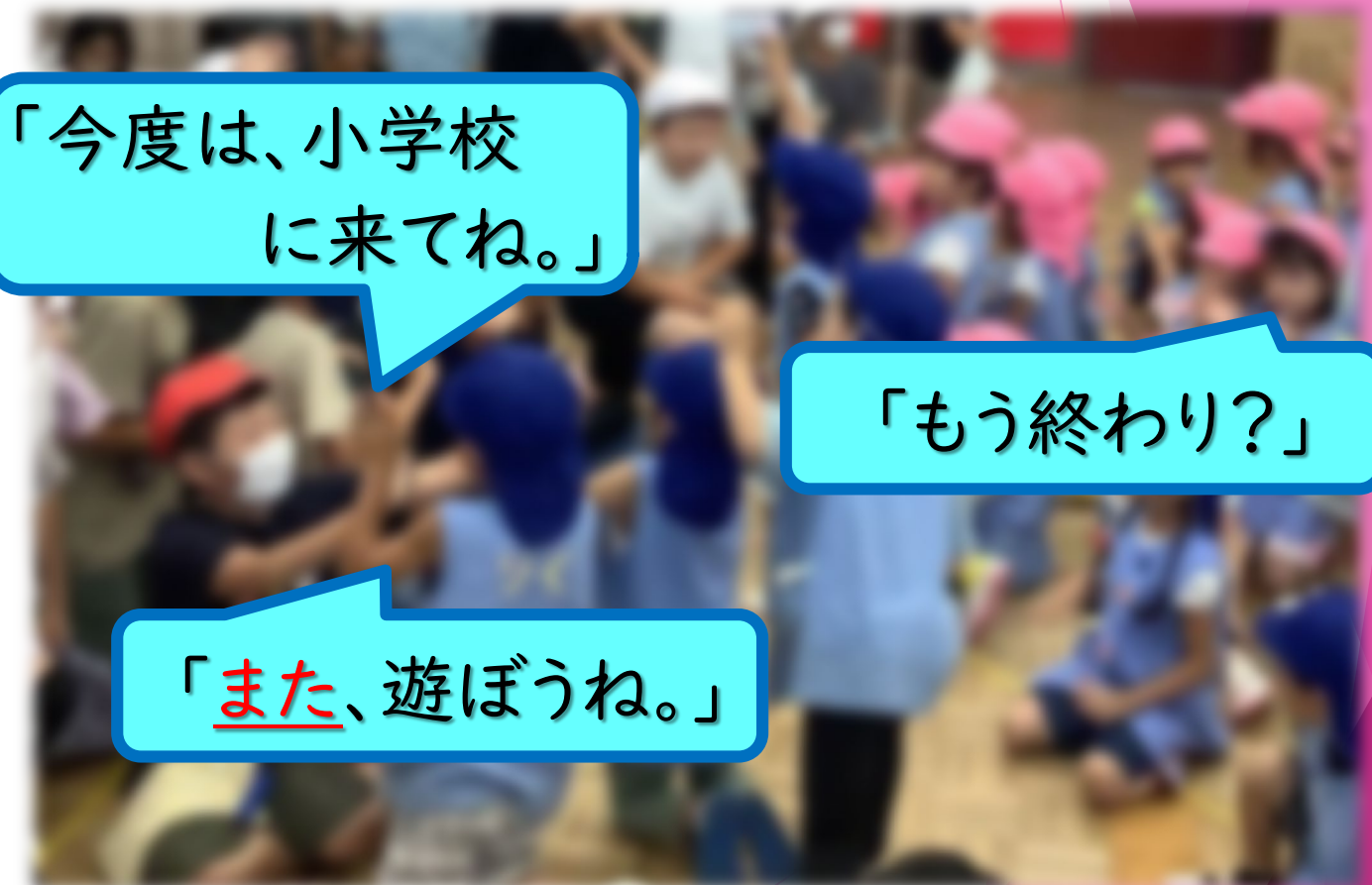


7月 第1回交流会(in幼稚園)

～「遊び」を通じた交流～



「次は、何する？」



「今度は、小学校
に来てね。」

「もう終わり？」

▶ 遊びを通して仲を深める

「また、遊ぼうね。」



「次は、何出す？」

7月 第1回交流会を振り返って

園児

- ◆トランプが**楽しかった**。
- ◆一緒に遊んでくれて、**優しくかった**。

○交流する楽しさ

児童

- ◆始めは、何を話せばいいか困ったけど、自分から話しかけたら、いっぱい会話が**できて楽しかった**。
- ◆帰りに「ありがとう。」と言われて嬉しかった。
- ◆座る位置が5年生同士だったから、次は、変えたい。
2回目の交流会が**楽しみ**。

○関わるよさ

○次につながる意欲

12月 第2回交流(in小学校)～「協力」のある交流(園児・1年・5年)～



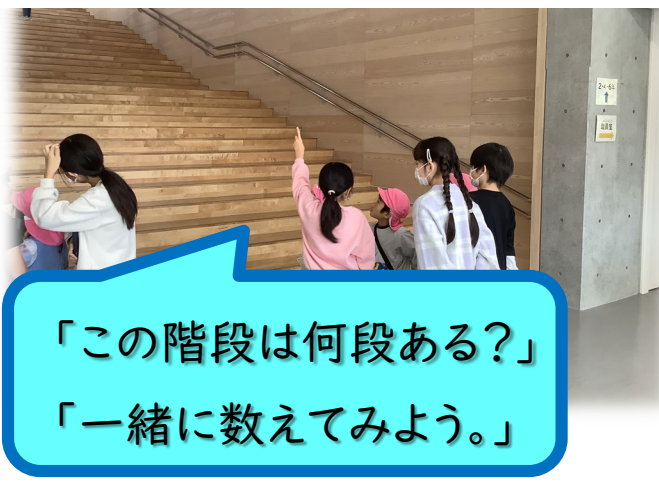
- ▶ 5月からサツマイモを栽培し、手作りしたスイートポテト



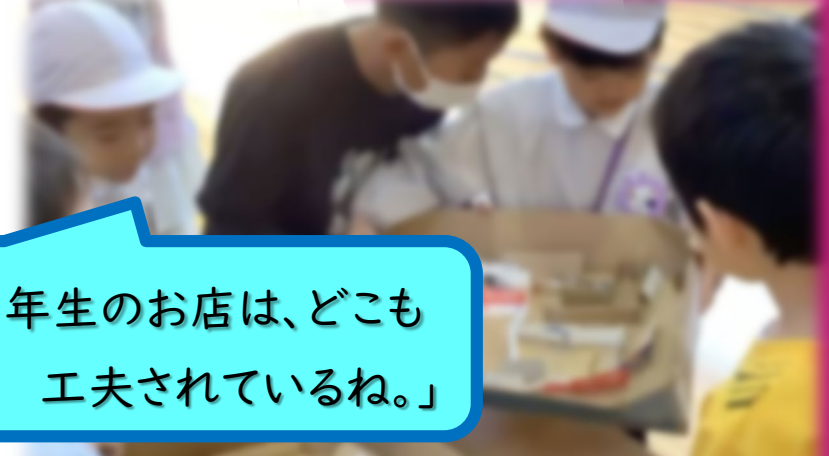
「おかわりください。」



- ▶ 園児にクイズや課題をだし、共に答えを見つける校内探検



「この階段は何段ある？」
「一緒に数えてみよう。」



「1年生のお店は、どこも工夫されているね。」

- ▶ 1年生が出店する店舗へ行き、園児と1年生をサポート



12月 第2回交流会(in小学校)



「お店屋さんへたくさん来て
くれてありがとう。」



「すごい! トンネルだ。」

「次は、いつ会える？」

12月 振り返りの変容

園児

第1回交流会振り返り

- ◆トランプが楽しかった。
- ◆一緒に遊んでくれて、
優しかった。

第2回交流会振り返り

- ◆スイートポテトがおいしかった。また、食べたい。
- ◆小学校の事がいっぱい分かった。また今度、来るね。

○関わるよさの広がり

○交流を楽しもうとする姿勢

12月 振り返りの変容

児童

1回目交流会振り返り

- ◆始めは、何を話せばいいか困ったけど、自分から話しかけたら、いっばい会話ができて楽しかった。
- ◆帰りに「ありがとう。」と言われて嬉しかった。
- ◆座る位置が5年生同士だったから、次は、変えたい。2回目の交流会が楽しみ。

2回目交流会振り返り

- ◆YちゃんとAくんが笑顔で「ありがとう。」って言ってくれて、こっちも嬉しくなった。
- ◆「おかわり。」と言われてもう一個あげられなかったのが、申し訳ない。今度は、そういうことも考えて準備をして満足させたい。
- ◆園児が私たちの言った事をすぐに分かってくれた。園児は、こんなにもできるのかとびっくりした。もっと、関わりをレベルアップさせたい。

○嬉しさの質の高まり
○相手意識の高まり

○園児に対する気づき

成果と課題

【成果】

- ▶ 計画した交流活動についてはおおむね予定通り行われ、一定の成果が見られた。
- ▶ 5年生も園児との交流に意欲を示し、活動に充実感を覚えていた。園児については就学に向けた安心感の他に、入学や学校生活を楽しみに感じる期待感のふくらみも見られた。
- ▶ 5年生が「園児は思った以上にいろいろなことができる」という気づきを得たことで、次年度の6年生と1年生とのかかわり方に大きな変容が期待できる。
- ▶ 連携推進地区事業としての取り組みを進めてきたことで、幼保小連携に関心や積極性をもつ教員が増えてきた。

成果と課題

【課題】

- ▶ 幼保小連携の取り組みが学校全体の取り組みとなっているとは言えず、その必要性や教育効果に対する全体の理解は図られていない。
- ▶ 幼保小連携は全市的な取り組みとして広がっており、今後職員が異動した先ではこれが当たり前に取り組まれていることも十分にあり得る。人材育成として「スタートカリキュラム」や「架け橋プログラム」について全教職員が理解できるように、研修も充実させていきたい。
- ▶ 今年度は交流活動をメインに取り組んだが、入学後の児童を考えると、交流した園とそうでない園とで取り組みの効果に差が生じてしまう。今後は「架け橋期」教育の充実をめざし、すべての児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かう教育計画（スタートカリキュラム等）の構築と実践をすすめていきたい。